

後援会事業実施報告書

佐々木 啓

歴史・考古学メジャーの日本近現代史ゼミでは、毎年夏季休暇中に、日本国内の史跡や博物館の見学を中心とした「ゼミ合宿」を行っています。日本全国に残る近現代史の史跡や博物館等での展示内容を、時間をかけて見て回ることで、通常の授業ではなかなかできない、歴史の“現場”を学ぶことができる、貴重な機会となっています。

2022年度は、9月20日から22日の日程で、広島県呉市および広島市にて合宿を行いました。参加者は、ゼミ担当教員1名と、4年生8名、3年生10名の、合計19名でした。新型コロナウイルスの感染拡大のため、2020年度、2021年度は行うことができなかったため、3年ぶりの合宿ということになります。

合宿初日（9月20日）は、本来であれば広島県竹原市の大久野島の「毒ガス資料館」を訪れる予定でした。しかし、台風14号の影響で鉄道の計画運休やダイヤの乱れがあったため、予定を切り替え、夕方までに呉市に移動するにとどめました。

2日目（9月21日）は、呉市内を見学し、戦前から戦後にかけての呉市のあゆみについて知るとともに、海軍、海上自衛隊の活動の歴史について学びました。午前中に呉市内の「大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）」と「てつにくじら館（海上自衛隊呉史料館）」を見学し、午後は、旧呉鎮守府司令長官官舎がある「入船山記念館」などを見学し、広島市に移動しました。

3日目（9月22日）は、広島市内の原爆関係の史跡や資料館を見学し、原爆の被害の実態について学ぶとともに、史跡の保存のあり方について考察を深めました。まず平和記念公園に移動し、「広島平和記念資料館」を見学するとともに、「原爆ドーム」など周辺の史跡を巡りました。昼食をとった後、午後2時頃に広島市内で解散し、各自帰路につきました。

台風の影響で、計画通りの合宿とはなりませんでしたが、広島周辺の歴史や史跡について、時間をじっくりかけて見学することができました。準備から実行まで学生主体で行うことで、ゼミ生相互の交流を深めることもできたのではないかと思います。ご支援をいただいた人文社会科学部後援会に、改めてお礼申し上げます。

以 上



